

乾金子鎮安堡より 赤軍撤退開始す

(黒河三日) 黒光リトビノフの文
 赤軍より乾金子鎮安堡西島のソ聯
 兵及び同艦隊はソ聯國境警備司令
 官チヨルヌイシヨフの命令により
 三日午後より撤退を開始し、同日
 に入りイウオベトロフスキー根城
 地附近に大隊引上り完了したと云
 はれる。右はソ聯海軍スホーツ特混

伯国練習艦、日本訪問？ 多数將校退海相に訪日を建議

(リネ、デ、ヤ、ホ、ロ、五、日) 最近伯國
 の対日親善熱が昂ると共に伯國
 海軍部内には練習艦による日本訪
 問の要望が次第に強くなり、あ
 り、練習艦サルグーニ、マリニ
 ヨ号は来年度より日本を訪問するの
 案が、右はソ聯海軍スホーツ特混

大平洋艦隊司令長官、ヒントロフ 赤軍撤退の理由を問ふ？ 將校多数を後援す

(東京五日) 五日、滿洲より
 某方面に連日、赤軍撤退の理由
 はソ聯大平洋艦隊司令長官
 ヒントロフ提督は、この程
 赤軍撤退の理由とありて述
 補されたとの説が同地で頻
 りに行はれてゐる。

世界一同飛行機行方不明！ 大平洋上でイート女史遭難の

(ホル、三、日) ホル、海軍提督
 守衛は三日作戦部長リ提督より
 指やを授受、艦隊中のイート女
 史の行方不明、八方手を捜してゐるが
 未だ消息なしと手掛の無い様子で、海
 軍海軍提督第一台は三日駆逐艦ニ
 復航空母艦二隻の捜索の下にハウ
 ランド島方面に向つたが、更天候
 に加へて捜索が中止、ハウラン
 ド島に至る二百海里の北東より、空
 に空しく引き返した。海軍提督と

その理由は諸説紛々として
 なるが、一説には同提督夫人の反軍
 命令、パイパイ提督で運搬された提
 督と艦隊を乗けてゐると云ふは
 小一説には滿洲地方のゲバウの改
 組されて、ハバロフスクから三四
 十名のゲバウが轉任して来た事実
 があるのだ、ゲバウの新活動の情
 報に上りし来たものと云はれて
 かる

この外滿洲河川には大津佐官將

御案内

拝啓、昨下益々御清栄の段々買
 陳者当組合カネシヨシ研究
 部は来る七月八日九日の両日に
 巨里在並日本人会館於て年一回
 カネシヨシ研究部相催し
 同御参観被下度
 追而一敬報覽は七月八日午後三
 時より八時、七月九日午前九時
 午後八時迄
 貴族接待は七月九日午後三時
 出品花即賣致候
 在並日本花子園同業組合
 カネシヨシ研究部
 組合員 各位
 在並同肥

定期総会開催

拜啓、来る七月九日(金曜日)
 午後二時より本会事務所於
 て左記日程により年七回定期
 総会を開催可致申間、万障御機
 合せの上御出席相成度此段及
 御通知下
 昭和十二年七月三日
 中絶海外協同会支店
 役員各位

算の取極の互急である。経
 案と来る十日頃までは出来上る
 放取とあつたので十五日頃一回
 予算案を提出し、その際、
 而して明年度予算に於ては無条
 約時代に対応すべきの補充充計
 画(所謂第三次補充計画)が二年
 度を含む、新艦艇の建造と本格的
 とあることであり、又既定計画に
 よる航空兵力の増大を計
 るに、当然本年度予算よ
 り相当程度の増加を要す
 こと、おらうの、米内海相は國家
 財政の現状に鑑み、省内各部署の
 要求經費に關しては、その輕重緩急
 小改革断行の先一步互協の出すべきだ

明年度海軍予算は 相当程度の増大

(東京四日) 明年度海軍予算編成
 に關しては、目下海軍省内部に於て
 省内各部署より提出される要求概

貴院 改革 問題

近衛首相は六日午後一時
 半首相官邸に貴院制度
 調査會總會、互州會、同
 三被選せる既定方針に沿

赤軍極東軍司令官ブリュネル元帥

目下モスコに於て厳重監視を受けつゝあり

ロシアの諜報

(倫敦三日)ソビエト赤軍極東司令官ブリュネル元帥は先般極東へ帰任...

陸軍側の出方を監視

(東京三日)カンチヤマ、チナム本島附近に集結せるソビエト將兵...

カンチヤマ事件の成行

(東京三日)カンチヤマ、チナム本島附近に集結せるソビエト將兵...

航空工業の発展

航空工業の発展

(東京三日)最近日本の航空工業は目下指しここの程高飛車ラジカル...

衛生省(夜稿)設置問題

未週中の最終的決定を見る

(東京三日)国民保健の向上に關する中央機關の設置問題に關して...

衛生司(夜稿)設置問題

未週中の最終的決定を見る

二つの指導精神

左持の精神と右持の精神、現在の衛生行政不統一各省割拠主義の弊を矯めんとして...

池田日銀總裁

病氣全快活動開始

(東京三日)林内閣連任時病氣を理由に辞職を呈し、池田日銀總裁はその後久しく病氣を療中...

リおでちやわら丸 八日出帆

MEROFIX DEL SR. ALEMAN (MARTIN) M. SEITZ & Cia EXPOSICION VENT TALLERES DEFENSA 321 CHARCAS 4511

会 齋 ツ イ セ

満ソ國境線を往く

神田生

見えない標識が境界

禍根一掃は軍備充実

「河川の本質が純く統一にあ

ることは、揚子江が南北支那を封立せしめ、黄河が中部支那を統一せしめる作用をなしてゐるが如く、また黒龍江を挾んで繁栄してゐる「黒河」と、ソ連邦の往來通商から双方ともを表徴した如く、例證は乏しくも起らぬ。

周知の如く蒙古人は遊牧民族であるから、改革を急いで点々移動する。従つて彼等は牧草の良否を知つてゐるが、國境に対する考はあつたのである。それをソ連邦が外蒙赤化工作の進展から遠く無二困難したものであるから、この一帯の蒙古人はいづれも不便を叫んでゐるやうだ。

河川國境に於て既に如上の如し況んや陸地においてをやうで陸続きの國境とあると一層面倒だ、それは先頭を捉へて頭と頭との境目を鑑別する以上は難しい。

例へば東部國境が「綏芬河」から圖們にいたる六百廿ニキロの長い線に、國境線として存在を認め得るものは僅か十個にしか過ぎないものである。標識と標識の平均間隔六十キロ、是によつては百キ

ロ以上も尚れてゐるうへに、は匪賊安住の密林地帯といふわけで、どこが國境のふか金く判定がつかぬ。

もしそれ、滿蒙國境にいたつては一望千里の曠野、沙漠と草原とが混じり合つて、夏季は皆を浸す野草が繁茂してゐるだけのことだ。「國境」といつた觀念などは些かも起らぬ。

周知の如く蒙古人は遊牧民族であるから、改革を急いで点々移動する。従つて彼等は牧草の良否を知つてゐるが、國境に対する考はあつたのである。それをソ連邦が外蒙赤化工作の進展から遠く無二困難したものであるから、この一帯の蒙古人はいづれも不便を叫んでゐるやうだ。

陸境としては監視も嚴重であり、それだけに比較的ハツキリしてゐる管の滿洲里の國境線も、末てみれば根拠どころがない。

こゝは我が監視哨に對してソ連側は約十五百メートル距つて國境線路の八十七号待避駅に二百名近い赤軍を配し、更に四五十名前後には野砲が置き亂れて、尖つた國境人の氣持を知らせてくれるが、

夫邦軍とこの地兵と反撃し勝利を得た記念としてソ連の建てたもの、柱の中にまで監視兵を入れた、十メートルの距離で眺み合つてゐるところである。

では何を根拠にして眺み合つてゐるかといへば、勿論國境標識を基礎にしてゐるわけであるが、その標識といふのが極めて頼りないといふのは、左の如きだうか否か陸の裏側に標識があるといふ、裏側であるか見えないことはいふまでもない。その見えない標識を一つづつ國境線として、右側の國境線路のその向ふの原ツツの中は小石を積み重ねて埋めたポツンとした國境標識と同様國境の境として、この奥と奥とは目で一線を見つたもので、つまり國境線といふので、それ以外は何等の區別もあつた、あるものはたゞ草原と丘陵とがつらいついてゐるだけである。

双方とも「感」で國境線を見込み監視してゐるわけである。その上以前は、この國境の「奥」としての小石の小さなソ連側は夜合ハツソリ進めてゐたといふので、一夜、明ければまた國境の「線」が変ること恰も既述のメキシコ國境の如く、國境線の引き方はいよいよ判らぬやうなものであるといふ。

昔から夏にかけてこの草原地帯には野砲が置き亂れて、尖つた國境人の氣持を知らせてくれるが、

花には國境線の區別はあつた、一面に咲き乱れるだけであつて、散歩してゐるといふ趣境することがある。するとソ連兵はいきなり発砲する、この間も滿洲國側の蒙古人が跳ね返つてゐるやうなソ連側と思はれるところまで行つて了つた。それをソ連兵は狙ひ撃ち方にして右前脚を折つたといふ。その大がかりな足許に訴へるが如くになり寄つて哀しうにケツとソ連側を見詰めてゐた。國境の不明確が奮然と怒刺はたまで及んでゐるわけだ。

だから、地圖の上には引いた線で國境は劃定してゐるが、この言は、線に描いた線以上の空論だ。

然らば速かに國境を劃定したうは、こゝに於てあつた、が、滿洲は一年といつても解氷期から始末期までの六ヶ月足らずである。北緯五十度の緯をもつて日露國境となす極大の一直線を示してゐる歐美的國境でさへ、大馬少將以下は兩國委員が劃定したるまでには七ヶ月を費してゐるわけであるから、ソ連のそれは如何に煩瑣に進んで四五年はかゝらう。

私は國境紛争の跡を眺み、最良の手段は、さうした歐美的國境劃定よりも寧ろ軍備の充実が先決問題だといふたい。國力の反映とも云ふべき軍備充實と充実してあつて、しかも平和に事を進めて行けば國境線は自然と劃定される。

う。そして彼にして傲岸な自負心を捨てずからかつてくるに於ては痛烈なる反撃を食はして脅威してやるのがよい。彼らは細午の一擧一動を気にして好転の逆転の議論してゐる暇は、まづ國力と軍備の充実を急進すべしである。

而して最後に特には諒解の注意を喚起したいことは國境部隊の將士はついでである。滿洲里も黒河もさうであるが、就中東部國境は息づまる武裝待時を待つてゐるのだ。こゝの目下軍警は國境警備といふよりは休戦状態といふ觀念に置かれてゐる。この尖鋭の對立が平和的手段で緩和されるか、それとも益々激化して腕でドカンとくるかの境目は曝されてゐるからである。

國境は俗に魔物だといはれる。因縁としては、双方ともは戦意が深いにして一觸即発の武裝待時下にある國境の紛争が武力的に拡大するとせば、事態は必然とこまて進展するものとみねはあつてゐるやうだ。殊に、時折折りは思ひがけぬい衝突を惹起して負傷者はおろか戦死者まで出してゐる國境部隊の氣持をどうしては断じて「警備」ではあるまい。

私は國境にあるこれらの日滿軍警士に、深甚なる謝意を捧げ併せて我が朝鮮人士の猛省を促して以てこの禍を絶つこととする。(了)

航空研究機 飛! だん飛! だん飛! 大空狭口東京敦飛

川田中、河田山本各技師、瓦斯電の
川口技師、航空本部の二村中佐ら
が緊張して待ち受けるうちに、立
役者テレスト・パイロットの立川陸
軍航空本部技術師藤田雄蔵大尉
が立川機を駆り飛ばして飛行場へ馳
けつけた。

眞 紅の翼に銀色の胸帯大航空
研究所が四耳向、五十万円
の巨費をかけて去に向う。流六
十キ、無着陸突破の長距離試作機が

汗 拭く暇もなく藤田大尉
は持参の落下傘をさう下
げて、助手役の明野校助教高橋福
次郎曹長を促す。何の躊躇もなく

空 にびくエンジンの轟音
の響けが、細い胴体
に似つぎ、荒鷲のやうな翼を大空
に伸ばし、飛んでゆく。上空を大ま

五月二十五日 羽田飛行場
見事に飛んだ
翼幅廿八米
自重三ト半と
いふ大きな四
の滑走路をな
ければとて、
飛べまいとい
はれてゐたの
のがいと高
單に「ワリフ
ワリと飛び上
つたのだ」
午後四時すぎ
怪物飛行機
が格納庫を引
出される。飛
行場は早くこ
黒山の人がだ
り、庄の親の
航空研究所の
和田所長、小

六分間、場の芝生をかすめて、ふん
ふんと滑走、滑走六十米ばかりで
ピタリと停止した。時に五時廿六
分、五時三十分、藤田・高橋両機長
を導いて地上は急ぎの拍手。庄
長格の小川技師の固い歓喜の涙が
光った。

航空研究機の性能
航空研究機は初代航空研究所長飯沼波
案に赴き、試中のお定と親しく合談
した。細谷裁判長をその前夜訪ねて
「因衣のお定、を訊く。性来、騰氣
な女だつたが、これにその更生の早か
つたりは驚くばかりである。もう
過去の予定ではないうるから興味
本位に見られることはお定の最も
苦痛とする所である。外部に渡すま
いと考へてゐたのだ。まじり
に考へてやわやく水給へ」と前提
して裁判長が語つてくれた。お定
更生日誌はかうである。

囚衣のお定 更生日記

昭和情艶史の女主人公阿部お定
(三三)が尾久花街を舞臺に未曾有
の驚奇をまき起してから、ちよ
うど満一年、三二六事件後の重苦
しい空想の中に、くりかろげられ
た桃色絵巻をたぐひに、嫉しい思
ひが、織奇好きの人々の感情をく
すぐる。その後お定はとうしてあ
る。去る廿一日、東京刑事地方
裁判所細谷裁判長から懲役六年の
判決を宣告せられた。お定は、一
旦市ヶ谷刑務所に移されたお定、
六年といふ永い拘禁生活の第一歩
の早さを獄中にどう感じたか? 去
る四時、お定は責任上お定の現況視

女 ばかりの刑務所
に移されたお定は、最初は何
も知らず、お定の希望によりお房
と手へられた。最初のほどは血涸
めの長襦袢の夢を追つては、夜半に
なると愛人石田の夢をみてゐる。

侍の娘全歐で大人氣
(バルリン巻) 原節子主演の侍
の娘(新しき侍)は去る三月
廿三日バルリンに於て封切され、
以来五月十八日迄に主要都市の二
十六箇の大小映画劇場で上映され
観客總數六百万を越へるといふ未
嘗有の人氣である。

ALMACEN NISHISAKA
日本食料品輸入販売
西坂貴六商店
市内アウストラリア街二〇二
番(三三三三)二九一五

琉球三味線教授
市内モンス街一六四六
市内三三三三—八四二四
安里龜栄